掌中嵐雪發句集 初編 全

俳諧集艸第八集

掌中嵐雪發句集 初編

江戸本石町十軒店　英大助

掌中嵐雪發句集 初篇

春之部

改正

江海波　魚の立てる春　乃ちの春

元日や　うれしく　苔乃　如かうも

面くの　塵とはふや　花の雪

今朝春の　奥孫もなり　春もあ　搨（ホタ）と冨

五十ゝゝ　四谷をうん　花の雪

初雪や鳶を打ぬる牛の鞍
惟茂と起しよまする二日の事
けふを睦月二日よりさわぎとんの
起せしかくやさるとや
宝ふね 初雲雨を畧
以ア以ふんね寝ころや 宝ふね
茅葉七はぐひと判ぎる図照
七草を三度ふんうつこと首の那

めれ掾や蒜こなるく 去 ちるる
夫 妻
とるるるるるめ茅葉しるつを歌
歌ちる
ちつくこと 答語あるる 夫婦式
嘗
嘗に ほうとと 息をる 山孫る形
うるひを や 出院の面戸はるる書
梅

むかえ一篇一つゝん　ゆくとしかさ
はなかつる集ゝ　ゆくとしの
又ゆく　ゆくとし

小とゝふ一字歌

ゆきはゆるぬ　宵中を　梅の木　ゆく
梅ちるや　歯のあひゐる　秋うゝ　ゆく
相反のゆく　京うゝ　ゆく
笑東ゆく　知るゝ　ゆくとゝ　出ぬ　ゆく
くゝとひゝゆく　ゆくとゝ　ゆく　ゆく　ゆく

ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく
ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく

椿

椿のかゝる　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく
歌しらず

正月を　すゆくゝ　雑　ゆく
下塗の　ゆくゝん　南部　雑

ぜんしゅうさ牙を疲よりは猛活
藤のらうはうあく人の孫の那
をんまかくろく
なれも意猫よ伽羅焼てうろ舟
燕
簾よ入る美人よ別るく燕哉
柳はふかてれすれ嵐乃夕燕
帰京

明猫よ寄きり口より 坂屋乃
惜暮別
虚空を引くやいなや
数星の鄰かたるたかたる
彼方へ新潟乃ぬいの長乃
蛙合
うしやさでの芥とゆく 蛙
上野うを鳴り侍るとく

酒くさき人とかくまる　胡蝶子

鶴舟

中川やかををんても　鶴舟

むらさきや手門　彼辰の市

橘

人をいはぬ花もちるなり　橘穂

苗代

ちらし流す老のちりやゝ庵たまれ

上巳

うら山ゝの雛かゝつてそ長なる

ぬるの長くなるつゝん　叶乃餅

汐干

汐干うれ　狂嬉

桃

桃の日や　解ハ美人と笑ふ

美

白雪乃酒と吐くんそれのやう
花と風かろくそそぐけ酒の泡
櫻川ちりそく流るまち櫻の里一かまえを発り
膳夫なる出女い爪しや糸けくら
敵を物妻餅うるけるる菓屋
子習ひ師を車屋や花の児
恵好の楚打りりり花さりと
頼光山入之賛

雪後之夜風おろしたる山さくら
花片〳〵敵不行る吉野先き
岸辺の雪ひとふしや出る行
女中方尼前を花の先達う
大和路ひ孤東湖先ちれく風車東風
かうと西へ引に吹えられ菊後
与仁菊雅を多形ふり大井川越
ふり尼太廣一宗庵く風の何うの吹や

逢坂を関出る跡ちりそれのき
大井川紅葉ちらしそれ乃なひ

鄭躅

白はしまつ〻ちりて角やう
花 紅葉ちり果ス
あちら浪ゑ鶴 三サゴ ちらしいそ漕
小奴吉爺ゑ花をゑんせ〻
小坊ゑよ足をゑ乃ん 松ゑ花

夏之部

更衣

塩魚の裏ほ干日ゑり衣うえ
揚ゑ野ゑ捨られと 給ゑ那
青蘭
五位六位色こき海せら 青すゑれ
時雨
引絶を那の歌ゑせん かゑ支沢

おとろきて恥ぢさる道具かくうん

待乳山の社殿を爲をがきて

空ゝを雲と蜃龍のときぬ　郭公

時ゝ鳴や利休乃蕎麦先

悼晋子ゝ母

帰いりて書もれしをれを時ゝ

ゆくときて旦夕里さひ燈らい比

涉成篇いゝ為節をほときす

斉をまゝうゝ

橋変めなうゝ花乃飯を食る

川霧や隣ゝ燈め新夜寒楽

経の偈を連ゝとときぬ時ゝ

比三句八晋子追善の吟なりとて

懐旧

かゝひゝる燈ゝけ新を義　楓

牡丹

古庭よりのり来りて ほとんぎす
土背ろくさんかむ新ろ 牡丹哉

青嵐

まつかしら宮まる時や 苗の色

彩樹

ゆるぎなく風やたたきたる 割よし
こゝも海道まつくく
雲母よ東下国よ 紙帳ろる

大勢の中へ一本 かつをの郷

熊毋

美人ろたくく変てるも お傳愚ろも
毒ろ夫悲観世音ろさと祈ろく
ろろ連ろ

童笑ふ如 ろろの老女 疑遊女
燕居も風ろ くくえいろされく
こゝろ縁ろ形妻ろく 友もろり

爭

井のゐやかうち寒の隔うも

善光寺うてみる吟ぶる尼こ

海松やかれうそしも寺の尾

漁父

義ほうく釣くるみ蛍う郷

照射

弓杖よ弄ちう新のやうるみ

端午

ちうり尾の長尾くく年菖蒲うな

世の行ゑめ月ちや菰乃髑髏

曾根ち弟を蛇り弟根弟ちる

片足ハ岩ち敷ゐてかゐとの郷

粽一ち全阿神ち家ち祭り

かうむきちる

粽ゆ初ちうに

撫佩さくやさえうしや芝看

市北

おもかんなめられ市北のそゝ礫

競馬　賀義

蔵まるうてゝ見えやめ〳〵掾

抜釵逐蠅

蠅そもさ婦ゐよ手東弓

新よ法〳〵飯粒蠅の折めゝを

蠅〳〵

それよ文新ゑ絶めや金の蚤

矢つゝや庵の故待人を食ゝ桃虫

ゝ沖ゝ庵の故美人の怪すこうれて

瘦ゝ柳よ仇ゝ庵ゝ故〳〵

庵の蛙や終よ枯ゝる藻塩草

紙白ハ庵紙よ故ゝ濡いれるよ古れる

故也　斧よ女の石をうり

萩萸

山茱萸のかさしや重きふる嵐

夜雨吟

天の月あや沢蘭の花かつらし

さらさらあんや蛭蚓の徹夜端の枝と

蛩しらべ

蛩孔雀を入あややし二つかし

つの乙女よかへるく丸きる葉飯の郷

三河風来ち

一もちのあひを登る山路哉

赤麦秋

蝉鳴や麦をうつ音ミ〳〵ミ

六本木うて

下雲和地蛍あ〳〵乃蝉の琴

あれうあしく雲に〳〵蝉の声

江の鴉

夏の日や　さゝぐく嵐のいをひゝり

稲村ヶ崎七里ヶ浜本陰ともあきなく乃

うへは涙父のこゝろにてゆかるごとい言るめ

を書くこゝ作る

照付て　こゝろも暑し　藤ヶ谷上

見うる家の男のこゝろ　表の粉七盆ゟ

りてから揚てうちあめる氏水を乞て

饗の氏たうと　かゝ　ん　道明寺

長谷ちの茅ゝく

飴売の笛ゝさいしゝや　ゆりの花

弦見堂　ゝく作るといふ人あり

汗ぬゝ　小松ゝ　干ゝく　沖津風

雲の下ゝ酒ゝ作ゝ　坂ゝ作さ

ゝて　けゝ　かゝ　もれをみゝ　しの

ゝちゝ　ゝ　ゝ　ゝく

川芎の氏ゝ作ゝ白ふ　茂りゝ松

藤沢を出て民家の門に木を根ざしを
拔あらしてくゝる天ちうそくたかく郭ろ
ありて木多く淋しく肥て木繁もつて
塊掬の樹をもて鼻ふかへたるさまうく
這出さるを所の名にとり松ちやゝ作る
戦場松ヶ山のうらもかゝ所名のさうへ
作る茶屋しらに
高ヒアにあらさらせん 松の陰

納涼

犬よ逐犬を追ふ我の陰さ
乗車のあゝくとうけて
すゝしさやゝ心多へる乗の色
逐限意
我意やはもすわまゝ 書鬼訂
乗帰りなんとく抱よ蚊れとゝへや
移さまん涼しくて二人移んとゝ

汗を拭すらく爲〳〵竹 孺仙

ぢんあつさにも和泉さはさや汗 拭

目をとの滝も人のまかてぬ日

爲〳〵三川屋乃慶そ志川を佐く

夏湖を打〳〵こゝろ〳〵思穂うね

御稜

今日の日を東の偶よりもて西の方に

おさ屋る長日雀秋の項上をりとて時の

法をあ〳〵こゝろ〳〵はこゝに日の沖を祭り

伊勢こゝを書海の海をて光りをく笑く

忘稜を人さ御をを爲し

いくはく孔海息つきて 夏はこゝひ

をかををを目の明をを 浜 孺嘉

秋之部

初秋

秋風の心をこゝをぬ 蹴すをれ

ほそりあれ糸をゆるぶる秋の風

葛

歯のいたみあるに葛の葉ちらし表

宗祇忌廟

石塔をあてゝ休む一葉の那

市中

盆とゝ秋なさ門乃竹篭ゆ

七夕

玄秋まや ふりかゝるる天の川

かし合や瞽女も彩ひの糸さらん

ほそ〳〵合に彩嫁ゝさん 待女郎

防鴨河使

妻越や人目ほゝみの河ぢゑ

梶の葉ゝゆらさかくるゝ

彩や糸ぬひとゝ夜ゝ糸天の川

夕涼ゝ元や隅田川ゝ糸の 梶 柱

蕉を井ゐんそとの礎鞠い毛の坊の之蕉
そやこれ田丈いきの風流ゑ〻ゑるかり
居ゑ〻ゑ居あり

秋蛙のうゑ〻孫を駕く之む式

薄

蕉ゑ〻ゑ蛙子つ連ゑ〻こけ加を
玉川へ二里ゑ体や蕉ゑ式

蛙の義

ふ月落く冨士に寄ふ蕉蛙式
毛の秋草ゑ吟あく蛙るゑみ
盃のゑを切歌ふゑ一字を探ゑる

潜

ゑ〻ゑ〻せゑく色〻こゑく蕉の義

虫　寺ゑ〻ゑ

唐號や蛙あゑ〻ゑに求りゑす
義虫のゑをゑきゑに求ゑ義の菴　芭蕉翁

雲ゆきさく
頭も重もあし　稲うちうつく　蛍哉

露

ゆるの葉を拾ひありけよ　露の玉
うすひ横隈ふて
いなつまたきしかくぬ　秋子ら目さ雪

鶏頭

まさ夜ふ　ひあ　ひや　紫鶏頭

朝霧とうつふ
蓮の實ふ　ふ　ひしうそもされた

同一周忌

まさふく　屋ひとり　無く　一周忌

西瓜

ひとうをもて　なつうへる　あれうは

盆會

喰　ふ　皆　ふくさし　魂まつり

[illegible]戸 柳や皆こぼくと苔子ひろへ

河内屋略

[illegible]陽[illegible]ふり家ら 鄙[illegible]こちら

九日の[illegible]戸まへを小野のたろむら[illegible]

冥途[illegible]かよへる[illegible]あ[illegible]て[illegible]弟

[illegible]ま[illegible]く[illegible]の義[illegible]て[illegible]

[illegible]戸[illegible]

[illegible]ま[illegible]く[illegible]とりつくむ[illegible]

霊棚の栗[illegible]さ[illegible]いの宗か車

[illegible]や[illegible]ぬや[illegible]

[illegible]る[illegible]八千[illegible]

盆の[illegible]八[illegible]集[illegible]逢[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]の[illegible]改[illegible]

[illegible]ねと[illegible]

[illegible]れた

夢ふかく似ふる美濃の暮寒し

松ヶ崎妙法の火

弦を焼く火の粉ちらちらや秋の空

大文字の句をもとめられた

山の端を雲ふもふんもや大文字

子車を曳へふるたる人ゆきて

鴨東の雨もうるやや藍畠

戻りても夢ふる苔（モス）乃茅舎ふ

蘭麝同肆

盆ふる蕎やを食乃義乃下

秋暮

森ふく蛩ふく又寂て見ても秋の雲

弥の雲石山ふる乃鐘ふ

月

名月や烟這ゆく水乃ふへ

死折折費ふ戸ふを敲ふ

菜飯の狼藉をする一客を
名月を隠もおよばぬ 梢 の那
時雨や 蓋 菱と鼎
海も山も訪ふ ふりかの月
ひとの鍋かまくらの名月 松江の鍋
名月や 組板をなしまきあの
塩ぬりの紀江のひもものぶよおもへを
さくれさくれあまことの名月

有無

ゆ先は まうり
秋くさ影くすぬ ふ月
名月を絶る 鶏のひろ
月をの略
早雲 名月の雲 ものさ
ふ雲 の泥 足 さ 敷
目 ぬ うつ 抱 ぬ
新 の 心 え

庚 鶏 筒

吟身や百花の名のおもしろき
鶯とゝ外より聞ぬ身ぞ

信濃俳諧樂

君来ぬと雨ぞ降こゝぞ弦張の声を仕
神主蓍表

新酒

新酒もし新酒を人の碓やすな
鄙ちゝ
ゝを約や　水村山廓　酒旅

なゝの穂やおやちと呼ぶ浜しき
本屋の蔭を碓きる　香炉庵

柿栗

ひとり嬢ちゝ柿　ちゝ　新ハ雅
標菓

林間ゝ黄焼する日をたゝの光
くちゝ木とゝおほゝめされて　板茸

菊

初菊やかしらの頭の白さほと
指こ入る風そよ安しろふち菓

菊九章 其一 九日

菊もまさつゆくつほむ九日哉

其二 素堂亭まてんく菓
乃くれりくれ

かくれ家やうめ菓の中こ咲る菓

其三 白菊を拷けるた
黄菊白菊そ介の名をたくもか

其四 名所の菊

白きくち鎌倉やすはを扇ら谷

其五 菖のたけのこそひつうある八哥のまそ
そくし菓をとてタをまく

雲の形ら菓七尺乃なら免この郡

其六 琴

琴そ弾る菓そうなけく籬ら谷

其七 碁

菓罫ふそ又碁こまけし人やん

其八書

手を抽(ぎル)芭蕉より孫ふれ菓の児

其九屬

菓さけを孫多く遊へ絵の具皿

京よりかゝ孫へ指るとそ有の

山紙をすることを

志賀越とあり〳〵彼や菓の花

鼾ふとをのれと笑ぬ こく子畳

表の菓枝ゝ多きれたおきふも

絵の菊ゝを新い餘こる 胡孫子

嫁ゝさゝ孫を祝ふる 菓子菓

さんそそひなの柏子のあるる郷

秋田梨の俳〳〵みうり者 蚊足

ひやう〳〵さへなつまろりとや

花すゝ紀 大名元をまつとうる

親ゝを嫁

紳つゝにもつれ〳〵まや 寿時函

孤林五葉

半まれる葉乃とかくれ枝乃年

莊子樗木の大きさ半とかくすの五葉の碎

さえを一ふくと色化されんと放散逍

のあそびなれすりの

ちりもも二度の情や物をうち

ちうへまのまて

蕎の柴や冴るの身ちるかるる時

冬之部

十月蟋

ちりくに鼠の巣まて鳴ぬ

風

木からし梢の柿乃名殘の那

芭蕉翁回卿

風の吹ゆくうしろ姿

一塗ちりいろをちまて身秋

山茶花

いさゝかの夢やあてなき世なれば

延喜帝

愛敬は国土の民ともかをるなり秋

のあとこゝろ御衣やぬぎ捨ひるゝなり

脱ぬまゝ御衣ぬぎ下る食の郷

炉

炉ひらく日をたゞ一人ぬぎ

冬の日ながをもてあまして

君見ずや我ゐいくて草の桶

炉

鴨なくく春まて歩む水の

駅夫篠

嵐や嵐の嵐やつゝむ

十月廿五日共桃隣出武江布施

義仲寺望芭蕉翁之墓歎唱

上書

六月七日のゆめつくよの夜半哉仲
の家上ゆひそまつく空華一数一水月
うちこたゆ時心猿一塵をひろきんを方
象よくう使る氏師とのゆめ
ゆつゆつと利しく他を利しく終て其
神不竭今を見んあへとを空弱人とて
氏下とかく移ゆつゆん者かゆは
十月廿二日夜

十月を夢うとはゆつゆつ
四七日　題翁三物
本かゆしの猿ゆ別深う義と立
十一月十二日神月忌
法中と変ゆ業ひとう耐へあり
元禄乙亥十月十二日一周忌
夢人の猿を紹めて納豆氏
七四忌

雲林時雨 [illegible]もむらや 坐興竜

十三回

ふくの蒲団よのかる 木奥式

帰依法 肉[illegible]の菜と咎ム

鮫のやうに腹と[illegible]するあけ鼓式

坊[illegible]

夏ふかくふるひ[illegible]

神乗

かくて舟澪の折の御供白くなり

雪

蛇もせよ 未充もせよ ゆきの猫

和[illegible]や 雑へらるぬ 白丁 花

今の[illegible]田うゑ[illegible]の門も見すてゝ

雑沓の夫を別さうにて笠の雪

明星[illegible]食しも見るるとにのうへ

雪[illegible]に雪を投地 あそひう郎

雪ちらしまうさぎ出ん紫の能波山
汁雪ゆむ[illegible]おこた[illegible]
なるれ
[illegible]出[illegible]とうん[illegible]
画賛
御神よ[illegible]静やす排
歳暮
山伏乃[illegible]師走か

古足袋の四十よ[illegible]
慰女房
三盃子[カウシ]と[illegible]年[illegible]
古暦ほ[illegible]人[illegible]
[illegible]見すと妹つくろひぬ[illegible]の門
[illegible]の梅を探るにおほつ[illegible]
足[illegible]人咲ぬ菓[illegible]
汁[illegible]の住居の

[illegible]

蕎麦うちく屑[illegible]自[illegible]年の雪

猿猴のてふまとかるやゆーのれ

辞世

一ぱいのうち吐一ぱいのうち[illegible]